



りんご特報 No.8

令和8年7月1日

J A中野市園芸課

J A中野市りんご・もも部会

今後、降水量が多く炭疽病等の感染が心配される場合は、「定期散布の前倒し」または「特別散布（特報No.7の裏面に記載）」を実施して下さい。

【第9回 定期散布】 *散布時期は目安です。

散布時期	7/12~18 *前回から14日以内	【定期散布】散布日 ____月 ____日(____)	
		散布量 _____ℓ	
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤（ハイテンパワー） 10ml マイトコーネフロアブル 100ml キノドーフロアブル 100ml オーソサイド水和剤 80 125g ⑧オリオン水和剤 40 100g （カルタス（カルシウム葉面散布剤） 100g）	(前日、1回)	(14日前、4回)
対象病害虫	輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病、ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、キンモンホソガ		
散布量	600ℓ / 10a		
注意事項	①【代替】キノドーフロアブルに代えて、ベルコートフロアブルの1,500倍（前日、3回）でもよい。 ②【カメムシ類対策】キラップフロアブルの2,000倍（14日前、2回）を特別散布する。		

【ナシマルカイガラムシの被害について】

*被害状況：果面に赤色の斑点を生じ、中心に白色の点を確認される。
（右写真参照）斑点は収穫時まで残るため、被害果は摘果時になるべく除去して下さい。

*発生部位：樹冠内部、樹の上部など。薬剤がかけにくい部分。
第1回定期散布（発芽期の防除）を未実施の園地は多発。

*対策：次回重点防除は、7/下旬~8月上旬（第10回）です。

新梢管理を実施するとともに、薬液が樹全体にかかるよう散布量を増やして下さい。



裏面もご覧ください。（高温対策）

高温対策について

1. かん水

- 目的：園地内の湿潤状態の維持・地温上昇抑制・土壌水分の激変緩和・日焼け防止 他
- ・かん水設備がある場合：晴天日数が概ね5～6日続いたらかん水を行う
*1日当りの散水量10mm程度（目安）
- ・かん水設備のない場合：タンク等で水を運んで根元に集中的にかん水する
*1樹当たり100～200ℓ位（目安）
- ・かん水時間帯：夕方が望ましい *ジクジク吸収させるため
- ・土壌水分激変緩和のため、特に梅雨明け後5日以内に降雨がない場合は、早急にかん水を行う
- ・打ち水効果を狙った日中のかん水
地面に撒いた水の蒸発効果により地表面の温度を下げ、そこから熱放射を和らげ園内の気温の低下を促す。尚、打ち水効果を最大限に活かすためには、緑陰部分（草部分等）への散水が最も効果的

2. 保水

- 目的：蒸散防止・地温上昇抑制 他
- ・盛夏期前に敷きワラ・マルチ等を行う *早めに実施しておく効果高い
- ・敷きワラ方法：幹まわり2m中心に実施（厚さ5cm程度・根量が多い幹まわりの保水は効果高い）
- ・丈を長く残す草刈り方法：盛夏期に園内の草を通常より高めに刈っておくことで、地表面が強日照にさらされることなく、高温抑制になる（草があることで朝露等残り保水効果もあがる）

3. 日焼け防止

- ・日除け枝等の設置
- ・主枝・亜主枝等の背面部分は特に日焼け果が発生し易いため、徒長枝は全て切らずに30～50cm間隔に間引く程度に切除して日除けする
- ・直射日光の当たる太枝の背面等に白塗剤（フジホワイトや農業用白ペンキ等）を塗布する
- ・日焼けの発生が心配される園の南～西側に寒冷紗資材を設置する

~~~~~  
\*降雨が続くと園地がぬかるみ、薬剤散布中や作業中等の事故が起きやすくなります。作業の際は安全に十分留意しましょう。また、熱中症対策としてこまめな水分補給・休憩をとりましょう。  
\*農薬散布の際は近隣園へのドリフトを注意すると共に、通勤通学時間の散布は十分注意下さい。

次回特報発行予定 7/16  
問合せ先：園芸課 23-3933